

# 仙台育英が高校野球で頂点

## 東北に初の優勝もたらす

第104回全国高校野球選手権大会は8月22日、兵庫県の阪神甲子園球場で決勝が行われ、仙台育英（宮城）が下関国際（山口）を8-1で下し、初優勝を遂げた。東北のチームが甲子園大会で頂点に立つのは、春の選抜大会を含めて史上



選手らに抱上げられる須江監督(上)

まで進みながら優勝には届かなかった。しかし今回、仙台育英が東北勢13度目の挑戦でついに歴史をぬりかえた。

仙台育英は四回に先制点を挙げ、五回にも2点を追加。七回には岩崎生弥選手の満塁本塁打などで5点を奪い、試合を決めた。

佐藤悠斗主将は「東北の人たちの思いを背負って戦った。初優勝できてよかった。（優勝旗を持ち）104回の歴史の重みも感じることでできた」と笑顔で話した。

須江航監督は「一度扉が開けば、（東北の）いろんな学校がなだれ込んでくる。東北にはその力がある」と最初の一步を刻んだ意義をこう話した。



表彰式で優勝旗を手にする佐藤主将(右端)

# 山口選手が女子シングルスで連覇

## 日本で初開催の世界バドミントン

日本で初めて開催されたバドミントンの世界選手権大会。8月28日、東京体育館で行われた女子シングルス決勝で、山口茜選手が東京五輪金メダリストの陳雨菲選手（中国）を2-1で下し、連覇を果たした。

第3ゲームまでもつれる展開だったが、山口選手は最後まで集中力を切らさなかった。粘り強い守備で相手のミスを誘い、攻撃では逆を突く見事なショットを見せた。

ベスト8止まりだった昨年夏の東京五輪では、優勝候補という重圧のために積極的なプレーができなかった。その反省から「具体的に自分がやりたいプレーを一つでも二つも出していければいい」と気持ちを切り替えた。その結果、昨年末の世界選手権、今年3月の全英オープンでいずれも優勝し、今大会でも迷いなくプレーに集中して連覇を果たした。



決勝でプレーする山口選手

表彰式で金メダルを手にする山口選手

# 馬場選手が全米女子アマゴルフで優勝

## 日本勢37年ぶり2人目の快挙

ゴルフの全米女子アマチュア選手権は8月14日、米国ワシントン州のチェンバースベイゴルフクラブ（パー73）でマッチプレー（36ホール）での決勝が行われ、日本ウェルネス高校2年生で17歳の馬場咲選手がカナダの選手を下して初優勝した。日本勢の優勝は、1985年の服部道子さん以来37年ぶり2人目。

この大会は、世界アマランキングの上位者132人に参加資格が与えられ、競技日数は7日間。最初の2日間は36ホールのストロークプレーで争い、上位64人がトーナメント方式のマッチプレーに進出。選手が1対1で対戦するマッチプレーは、一つのホールで相手より1打でも少ない打数で終



決勝でプレーする馬場選手(USGA提供・時事)



日本勢37年ぶり2人目となる優勝を果たした馬場選手(USGA提供・時事)

われれば勝ち、同じ打数なら引き分けて、最終的に1ホールでも勝ちが多い選手が勝利となる。

父にすすめられて5歳でゴルフを始めた馬場選手は、175センチの長身から打ち出す平均飛距離270ヤードのショットが持ち味。馬場選手は「パッティングが自分の思い通りに打てたので相手に重圧を与えられた。優勝を指していたが、まさか優勝できるとは思わなかった。びっくりです」と喜びを話した。

服部さんは「大差をつける庄巻のゴルフだった。馬場選手は私よりはるかにスケールが大きい。さらなる飛躍を楽しみにしている」とのコメントを発表した。

# 国体、3年ぶりに本大会開催

## 栃木で10日から会期前の競技始まる



体操・少年男子

第77回国民体育大会の会期前競技が10日から19日まで栃木県で開催。本大会は10月1日から11日まで宇都宮市を中心に熱戦が展開される。会期前と本大会合わせて37の正式競技と特別競技の高校野球が行われる。

2019年に茨城県で開催された後、新型コロナウイルスの影響で2021年の本大会開催が連続で行われなかったため、今回が3年ぶりの実施となった。今年の冬季大会では無観客での開催だったが、会期前、本大会いずれも競技によっては事前に希望すれば、観戦できるようになった。

会期前は水泳、体操、バレーボール（ビーチバレー）、弓道の4競技。観戦希望者は、栃木国体の公式ホームページから申請。申し込みを受け付ける競技も同ホームページに掲載されている。

試合の様子はJSPOTV国体チャンネルで見ることができ



アーティスティックスイミング

ウェブで 国体チャンネル 検索

ウェブで いちご一会とちぎ国体 検索